

# 西小千谷地区市街地まちづくり基本計画

平成 28 年 3 月

新潟県小千谷市

## 目 次

---

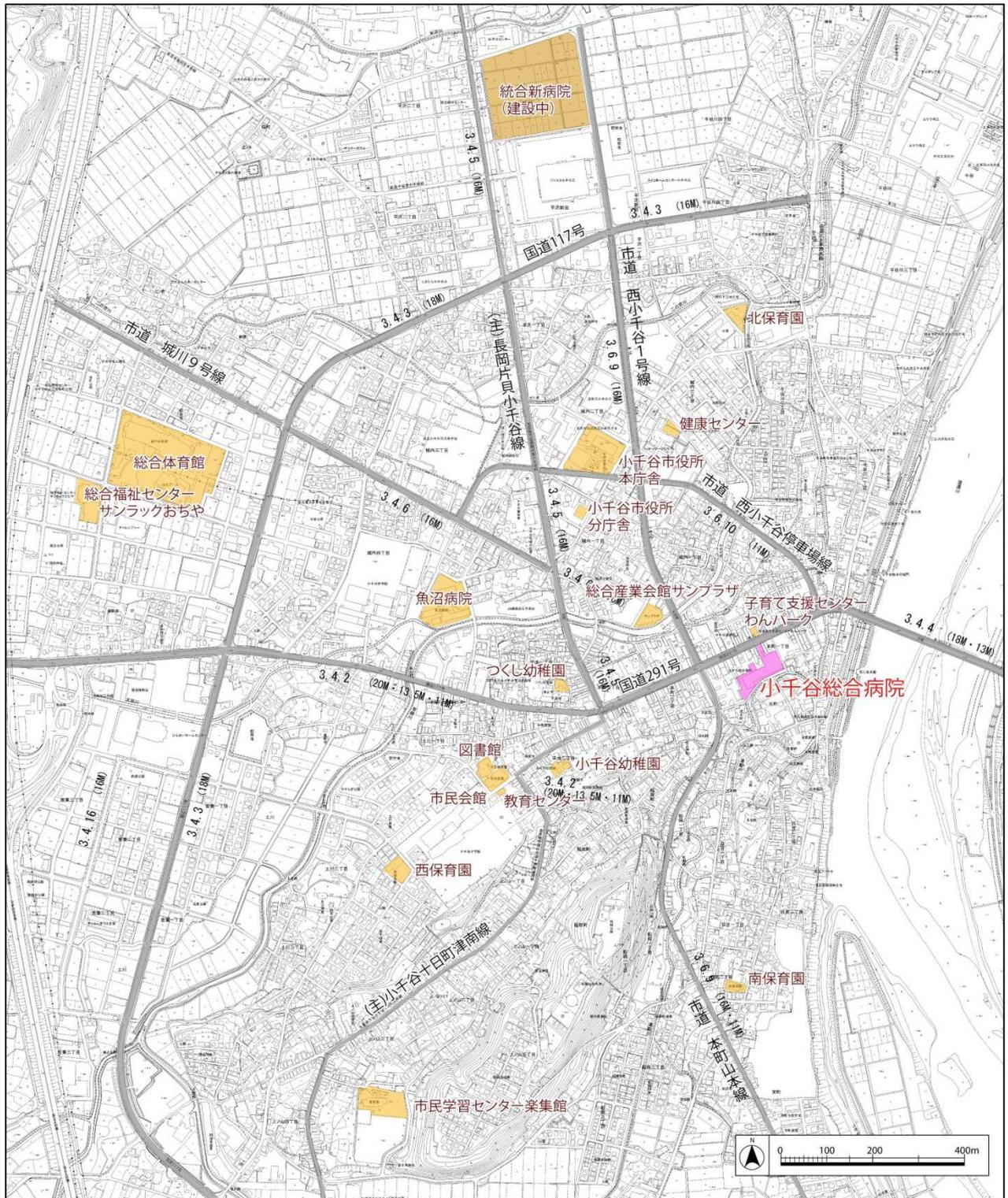
---

<b>第1章</b>	<b>計画策定の背景</b> .....	<b>1</b>
<b>第2章</b>	<b>西小千谷地区市街地の現状</b> .....	<b>3</b>
	(1) 人口の動態.....	3
	(2) 商業の状況.....	4
	(3) 公共交通の状況.....	6
	(4) 公共公益施設の状況.....	7
	(5) 景観の状況.....	12
<b>第3章</b>	<b>西小千谷地区市街地の位置づけ</b> .....	<b>14</b>
<b>第4章</b>	<b>西小千谷地区市街地の活性化に向けた課題</b> .....	<b>18</b>
<b>第5章</b>	<b>まちづくりの方向性</b> .....	<b>19</b>
	(1) 基本的な考え方.....	19
	(2) 先行的取り組みの方針.....	19
<b>第6章</b>	<b>まちづくり基本計画</b> .....	<b>20</b>
	(1) 集客機能の導入に向けた病院跡地の活用.....	20
	(2) 病院移転に併せた公共交通の機能強化.....	26
<b>第7章</b>	<b>今後の進め方</b> .....	<b>27</b>
	(1) 跡地活用に関して.....	27
	(2) 公共交通の機能強化に関して.....	28

# 第1章 計画策定の背景

西小千谷地区の中心市街地である本町1丁目に立地する小千谷総合病院は、その立地特性から中心市街地の集客や賑わい創出において大きな役割を果たしてきましたが、今回の統合移転により、かねてより活力が低下しつつある中心市街地に更なる影響を及ぼすことが懸念されます。

そのため、本市はその影響を最小限に止めるとともに、中心市街地の活力や賑わいを再創出する好機としてとらえ、本計画を策定することとしました。



## ◆検討経過及び体制

本市では、平成 25 年度に西小千谷地区市街地まちづくり構想基礎調査を実施し、平成 26 年度には西小千谷地区市街地まちづくり構想基本計画を策定しています。

また、平成 27 年度には、学識経験者や各種団体の代表者などで構成される西小千谷地区市街地まちづくり基本計画検討委員会（以下「委員会」とする）とその補助機関である幹事会を設置し、病院跡地の活用に焦点を絞った議論が行われました。そして、委員会から本市に対し、平成 28 年 3 月に提言書が提出されました。

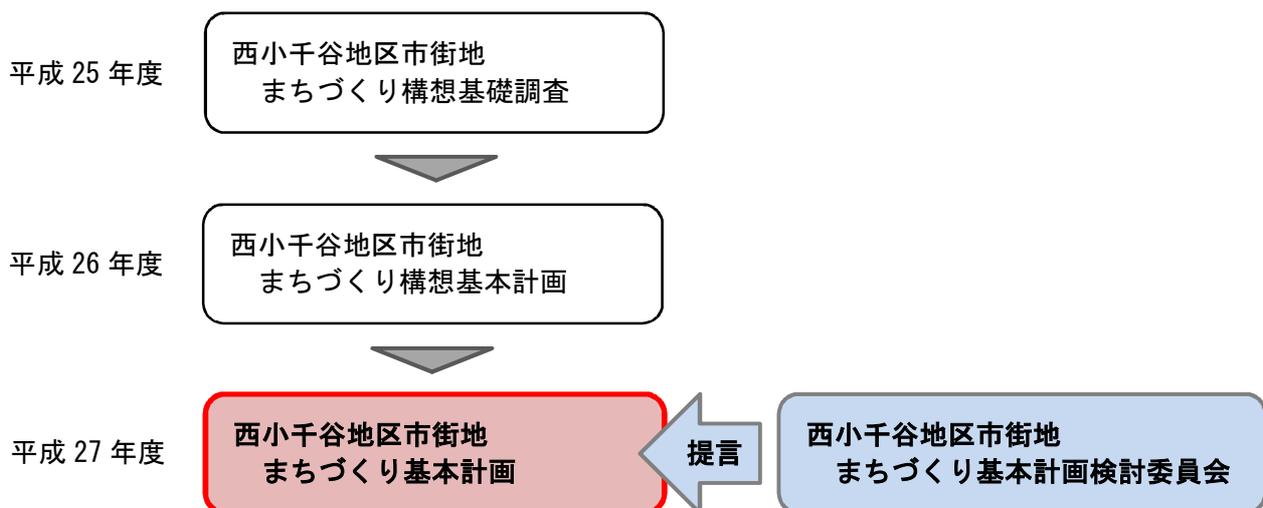
### 西小千谷地区市街地まちづくり基本計画検討委員会

- 学識経験者及び各種団体の代表者等により構成  
委員長：澤田雅浩氏（長岡造形大学准教授）  
所属団体：商工会議所、本町商店街振興組合、越後交通(株)、  
社会福祉協議会、青年会議所、(株)北越銀行、  
西小千谷・東小千谷地区の各町内会長協議会等
- 基本計画策定に関する事項について調査及び審議

### 幹事会（補助機関）

- 副市長、庁内関係課の課長により構成
- 基本計画策定に必要な調査及び研究を実施

本計画は、委員会からの提言を受けて、西小千谷地区市街地における活力再創出に向けた方向性をとりまとめたものであります。

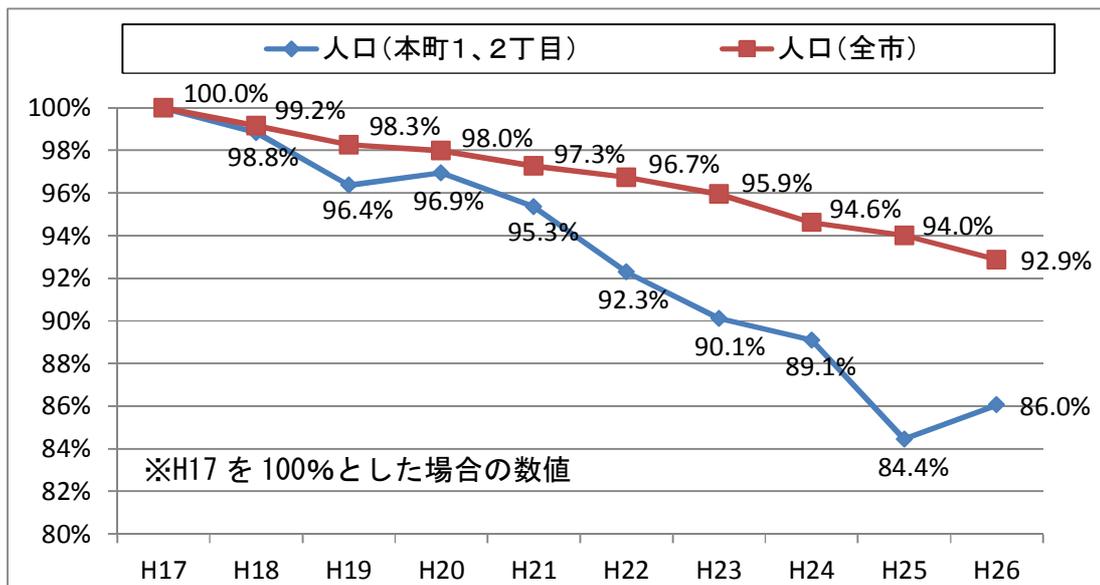


## 第2章 西小千谷地区市街地の現状

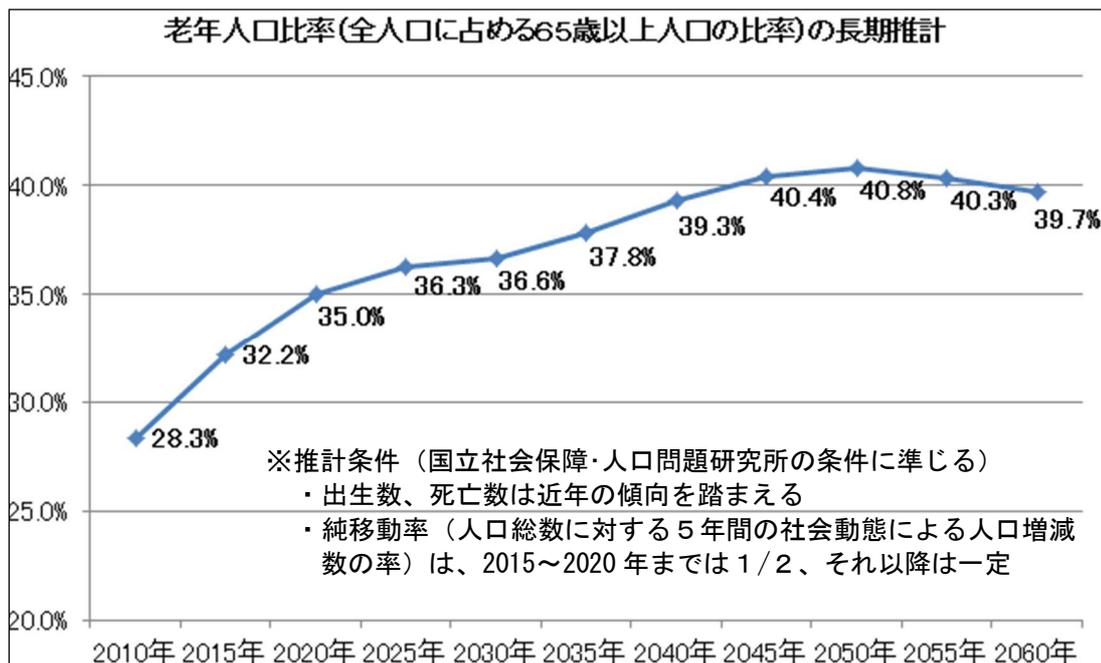
### (1) 人口の動態

本市全体の人口は年々減少しており、小千谷総合病院付近の本町1・2丁目の動向をみると、本市全体と同様に減少傾向にあります。その減少率は本市全体に比べて大きく、中心市街地の空洞化が進展していることが視えます。

また、小千谷市人口ビジョン調査分析中間報告書によると、本市全体の老年人口比率は、2010年(平成22年)の28.3%から2050年(平成62年)には40.8%まで上昇し、その後は相対的に減少すると推計されており、当面は高齢化が著しく進展することが予想されています。



グラフ 過去10年間における本町と全市の人口推移  
(出典 住民基本台帳、各年3月31日時点)

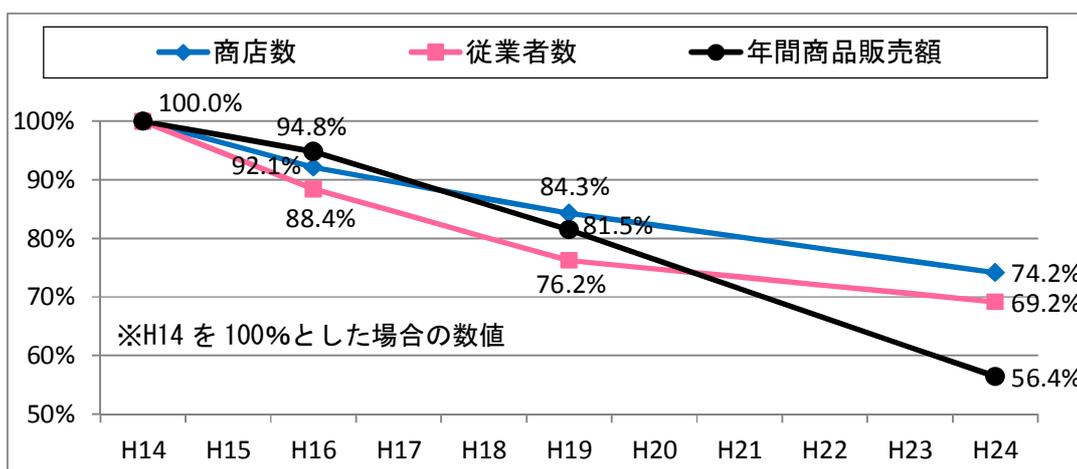


グラフ 老年人口比率の長期推計  
(出典 小千谷市人口ビジョン調査分析中間報告書)

## (2) 商業の状況

小千谷総合病院付近の商店街(本町商店街及び平成商店街)では、商店数、従業員数、年間商品販売額がいずれも減少しており、特に年間商品販売額は平成14年から4割以上減少しています。また、空き店舗も少なからず存在しています。

国道117号沿道では郊外型商業施設の進出が顕著であり(13頁「都市機能分布図」参照)、このことが中心商店街の活力低下の一因と考えられます。



グラフ 商店街(本町+平成)の商店数、従業員数、販売額の推移  
(出典 商業統計調査及び経済センサス)

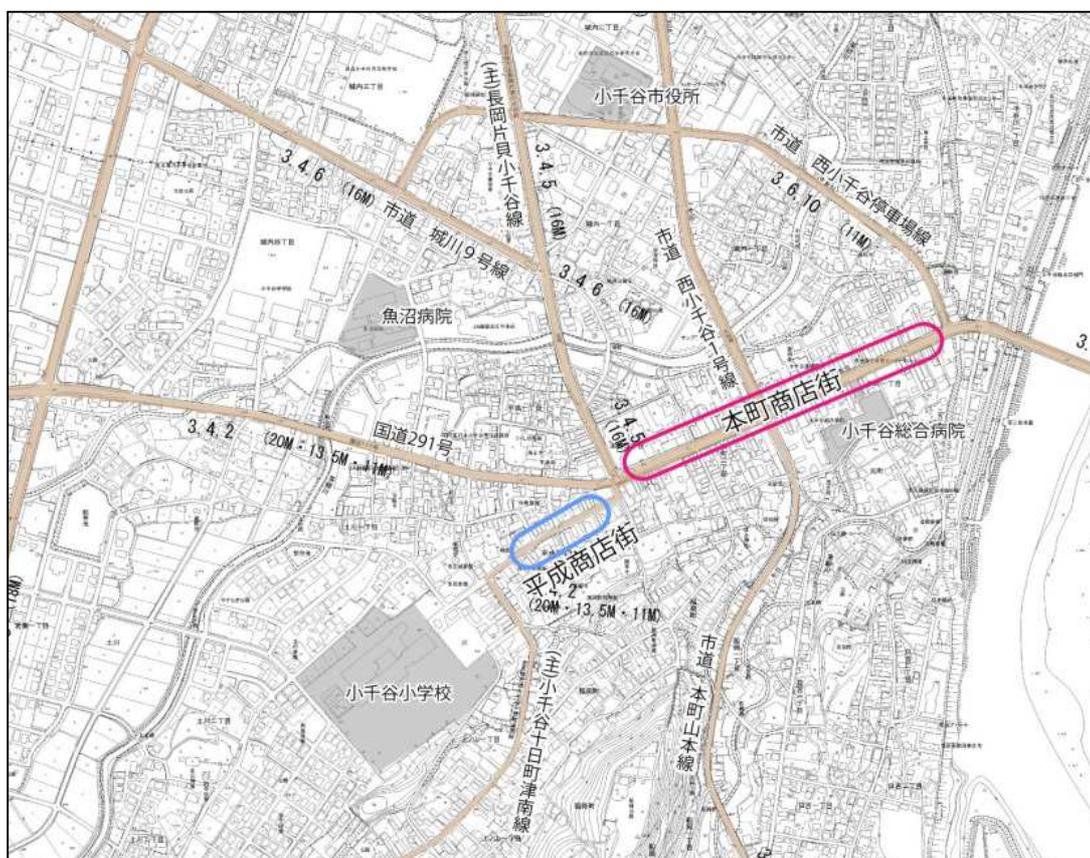


図 本町商店街、平成商店街の位置

本町商店街及び平成商店街では多数の集客イベントが実施されていますが、開催場所が道路空間に限定されるため、集客力の高いイベントは主に総合体育館で実施されています。

表 西小千谷地区市街地で開催されているイベント一覧

イベント名	開催日	会場	主催
おぢや こいこい 100円笑店街	毎年夏と秋の2回	商店街一帯 (東大通り・中央通り・ 本町・平成・サンプラザ 商店街等)	小千谷市商工会議所おぢ や こいこい100円笑店街 実行委員会
おぢやまつりお祭り広場	毎年8月下旬	本町商店街沿道	本町商店街
イキイキ商業まつり	毎年10月初旬		
年末(年始)大売出し	毎年年末年始		
九万九千日ピアガーデン	毎年8月	平成商店街沿道	平成商店街
ひいなまつり	毎年 2月下旬～3月初旬		
極楽パンチ	毎年5月～6月	極楽寺境内	極楽パンチ実行委員会 パンチーズ
おぢやれフェスタ	9月下旬 (H24年度～)	総合体育館、 サンラックおぢや	小千谷青年会議所
小千谷うまいもの祭り	毎年10月	本町2丁目	
おぢやまつり	毎年8月下旬	市内各地、 本町1丁目2丁目	おぢやまつり実行委員 会
おぢや風船一揆	毎年2月下旬	市街地郊外 (西中会場、平沢会場)	おぢや風船一揆実行委 員会
おぢや環境フェア	毎年10月	総合体育館	おぢや環境フェア実行 委員会
おぢや健康福祉まつり	毎年10月	総合体育館、 サンラックおぢや、 市民会館	おぢや健康福祉まつり 実行委員会
市民芸能まつり	毎年10月	市民会館	小千谷市市民芸能まつ り実行委員会
市民音楽祭			市民音楽祭実行委員会
おぢや☆うき☆うき☆ しゃっこいまつり (利雪・遊雪・克雪フェア)	毎年8月下旬	サンプラザ駐車場	利雪・遊雪・克雪フェ ア実行委員会



## (4) 公共公益施設の状況

### ① 公共公益施設の立地状況

西小千谷地区市街地に立地する公共公益施設は築後40年前後を経過した建物が多く、そのうち、新耐震基準(昭和56年6月)以前に建てられた建物は耐震改修を行った上で利用しているか、または耐震補強工事が予定されていますが、図書館に至っては耐震改修が実施されておらず、予定もない状況です。楽集館や分庁舎などは、文化財や古文書等を収集、保管する施設として活用されていますが、本市にはそれらを展示、活用できる郷土資料館的な施設がない状況です。

また、本市には都市公園が10箇所あり、全て開設済ですが、小千谷総合病院付近には立地していません(13頁「都市機能分布図」参照)。

表1 公共公益施設一覧(13頁「都市機能分布図」参照)

施設名	建築年	敷地面積 (㎡)	建築面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	構造	耐震性能 の有無	
市役所本庁舎	S44	10,946	1,345	5,046	鉄筋コンクリート4階	有	
市役所分庁舎	S61	1,497	641	641	鉄筋コンクリート平屋	有	
図書館	S52	1,420	791	1,652	鉄筋コンクリート3階	無	
教育センター	S48	323	137	441	鉄筋コンクリート3階	有	
総合体育館	H8	39,800	6,602	11,240	鉄筋コンクリート 一部鉄骨3階	有	
健康センター	S54	3,013	492	1,005	鉄筋コンクリート2階	無	
総合福祉センター サンラックおぢや	H4	4,672	1,543	3,134	鉄筋コンクリート3階	有	
西保育園	S50	2,482	449	689	鉄筋コンクリート2階	有	
北保育園	S49	1,204	356	538	鉄筋コンクリート2階	有	
南保育園	S54	2,364	474	776	鉄筋コンクリート2階	有	
子育て支援センター わんパーク	H6	731	258	546	軽量鉄骨2階	有	
市民会館	S48	1,764	大ホール	1,192	3,033	鉄筋コンクリート4階 (一部3階)	補強工事 の予定有
			会議室	1,444			
			その他	396			
			学童保育あおぞら	会議室を使用			
楽集館	S63	13,471	ホール	156	2,041	鉄筋コンクリート3階	有
			学習室	216			
			交流展示室	48			
サンプラザ	S57	5,532	大ホール	476	3,971	鉄筋コンクリート3階	有
			会議室	209			
			その他	3,286			
錦鯉の里	H1	2,532	598	598	鉄筋コンクリート平屋	有	

表2 公園の整備状況（出典 平成26年版新潟県の都市計画—資料編—など）

公園名	面積 (ha)		備考
	開設	計画決定	
白山運動公園	40.20	40.70	都市計画公園
信濃川河川公園	5.70	—	
旭町児童公園	0.23	—	
千谷運動公園	4.73	—	
桜町公園	0.19	—	
諏訪公園	0.56	—	
草薙公園	0.22	—	
西部公園	0.35	0.35	都市計画公園
両新田公園	0.29	0.29	都市計画公園
江東公園	0.21	0.21	都市計画公園
やすらぎ公園	0.15	—	
信濃川左岸河川公園	1.13	—	
片貝ふれあい公園けやき園	0.47	—	
ぽっぽの里公園	0.47	—	

## ② 図書館の状況

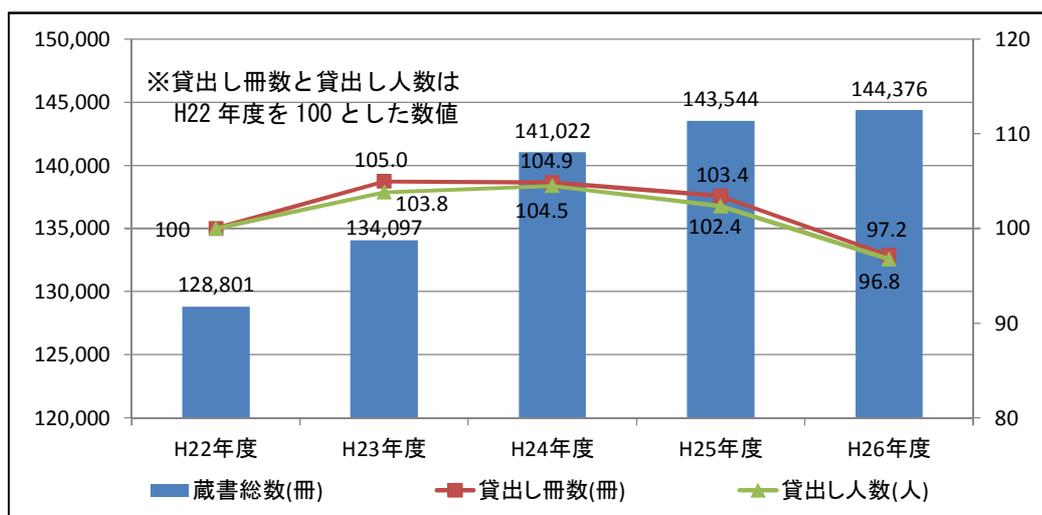
図書館は昭和52年に建設されたRC造3階建の建築物であり、現在までに38年が経過し、耐震診断の結果、耐震補強が必要と診断されましたが、現在のところ改修の予定はありません。

平成26年度における蔵書冊数の合計は144,376冊となっており、平成22年度からの4年間で15,575冊、年平均で約3,900冊ずつ増加しています。さらに、郷土資料として、西脇順三郎や目崎徳衛など郷土偉人の資料冊数も年々増加しています。

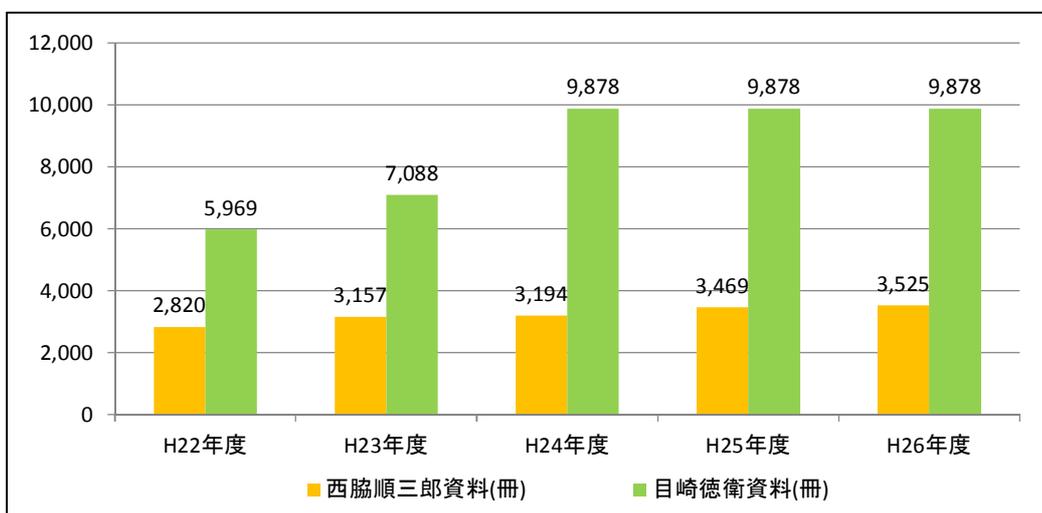
また、貸出し冊数と貸出し人数は近年減少傾向にあり、平成26年度は前者が149,885冊、後者が42,006人となっています。

表 蔵書数、貸出し冊数、貸出し人数の推移（出典 市立図書館）

		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
蔵書総数(冊)		128,801	134,097	141,022	143,544	144,376
うち西脇順三郎資料(冊)		2,820	3,157	3,194	3,469	3,525
うち目崎徳衛資料(冊)		5,969	7,088	9,878	9,878	9,878
貸出し冊数(冊)	(実数)	154,279	161,951	161,796	159,571	149,885
	(H20を100とした比率)	100.0	105.0	104.9	103.4	97.2
貸出し人数(人)	(実数)	43,408	45,071	45,356	44,430	42,006
	(H20を100とした比率)	100.0	103.8	104.5	102.4	96.8



グラフ 蔵書数、貸出し冊数、貸出し人数の推移



グラフ 郷土偉人の蔵書数の推移

### ◆図書館に収蔵されている資料

図書館3階には現代詩壇に大きな影響を与えた西脇順三郎の記念室、2階には寄贈された資料が数多く収蔵されています。

西脇順三郎寄贈の旧蔵書（洋書）は約1,200冊、このほか著書・詩集・写真・遺品・書簡・染筆等、多数の資料を収蔵していますが、スペースの都合上、定期的に作品を入替ながら展示を行っています。また、絵画も約60点収蔵しており、このうち20点を記念画廊で展示しています。

この西脇順三郎記念室には年間約600人（平成20年度～平成26年度）の入館者があり、主に市外からの利用者が訪れています。



写真 西脇順三郎記念室



写真 西脇順三郎記念（画廊）

## ◆図書館の規模に係る考察

都市の人口と蔵書数、延床面積の関係について人口規模に近い周辺都市と比較すると、見附市を除き、周辺都市よりも蔵書数、延床面積は充実していることが分かります。しかし、図書館システム整備のための数値基準と比べると、延床面積は約 1,000 m<sup>2</sup>小さく、また、蔵書数も約 60,000 冊少ない状況です。

表 周辺都市の蔵書数、延床面積（出典 新潟県生涯学習・社会教育の現状（平成 26 年度版））

都市名	都市の人口 [H27. 4. 1]	図書館名	蔵書数 [H26. 4. 1] ( )内は人口一人当たり	延床面積 [H26. 4. 1] ( )内は人口千人当たり
小千谷市	37,471 人	小千谷市立図書館	144,376 (3.9) 冊	1,658 (44) m <sup>2</sup>
南魚沼市	59,242 人	南魚沼市図書館	149,152 (2.5) 冊	2,500 (42) m <sup>2</sup>
魚沼市	38,624 人	魚沼市立広神図書館	95,062 (2.5) 冊	1,258 (33) m <sup>2</sup>
妙高市	34,359 人	妙高市図書館	110,357 (3.2) 冊	760 (22) m <sup>2</sup>
胎内市	30,708 人	胎内市図書館	74,473 (2.4) 冊	994 (32) m <sup>2</sup>
見附市	41,545 人	見附市図書館	186,450 (4.5) 冊	2,227 (54) m <sup>2</sup>

※小千谷市の蔵書数はH27. 4. 1日時点

## 【参考】図書館システム整備のための数値基準

（出典 日本図書館協会図書館政策特別委員会 2004 年 3 月改訂）

### ■ 図書館の最低規模は、蔵書50,000冊

図書館が本文書で掲げるような図書館として機能し得るためには、蔵書が5万冊、専任職員数3名が最低限の要件となる。このとき、図書館の規模としては800m<sup>2</sup>が最低限必要となる。これは地域館を設置する場合においても最低限の要件である（末尾に添付の資料参照）。

[延床面積]	人口6,900人	未滿1,080m <sup>2</sup> を最低とし、
	人口18,100人	までは1人につき0.05m <sup>2</sup>
	46,300人	までは1人につき0.05m <sup>2</sup>
	152,200人	までは1人につき0.03m <sup>2</sup>
	379,800人	までは1人につき0.02m <sup>2</sup> を加算する。
[蔵書冊数]	人口6,900人	未滿67,270冊を最低とし、
	人口18,100人	までは1人につき3.6冊
	46,300人	までは1人につき4.8冊
	152,200人	までは1人につき3.9冊
	379,800人	までは1人につき1.8冊を加算する。

### ■ 基準値の算出例

たとえば人口50,000人の自治体の場合、必要な延床面積の算出は、下記の計算により、3,161m<sup>2</sup>となる。

$$1,080 + ((18,100 - 6,900) \times 0.05) + ((46,300 - 18,100) \times 0.05) + ((50,000 - 46,300) \times 0.03) = 1,080 + 560 + 1,410 + 111 = 3,161$$

### 小千谷市に望ましい施設規模

□延床面積：約 2,600 m<sup>2</sup>

$$1,080 + ((18,100 - 6,900) \times 0.05) + ((37,471 - 18,100) \times 0.05) \doteq 2,600 \text{ m}^2$$

□蔵書冊数：約 200,600 冊

$$67,270 + ((18,100 - 6,900) \times 3.6) + ((37,471 - 18,100) \times 4.8) \doteq 200,600 \text{ 冊}$$

## (5) 景観の状況

小千谷総合病院南側の道路や病院屋上からは、越後三山(八海山、越後駒ヶ岳、中ノ岳)や朝日山、信濃川などの自然景観を眺めることができます。



写真 病院屋上から見た朝日山と信濃川

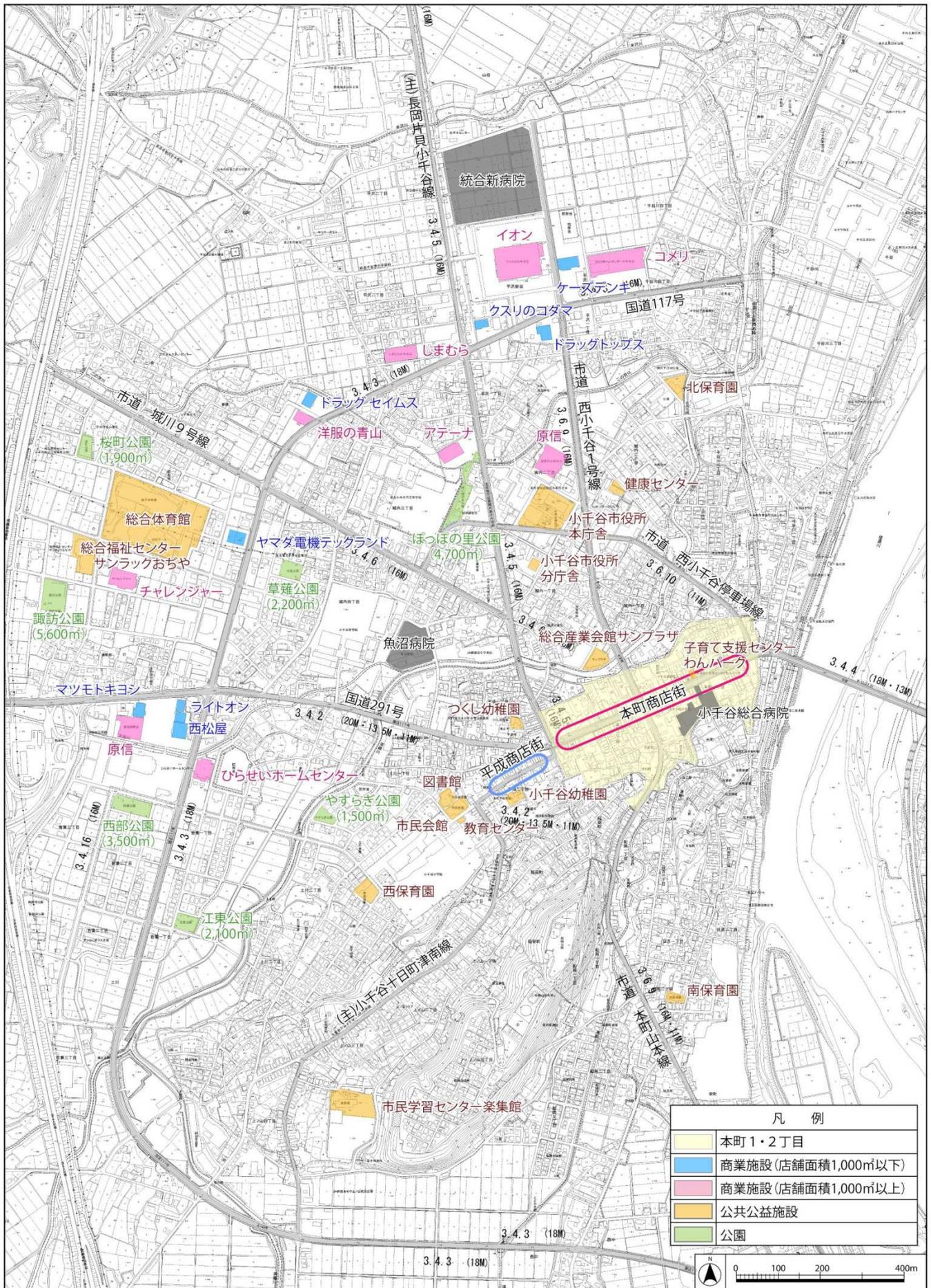


図 都市機能分布図 (商業施設、公共公益施設、公園)

### 第3章 西小千谷地区市街地の位置づけ

#### ① 小千谷都市計画マスタープラン（平成25年3月）における位置づけ

◆ 小千谷市全体の都市づくりのテーマ ◆

## 個性が輝く創造と交流の都市 小千谷

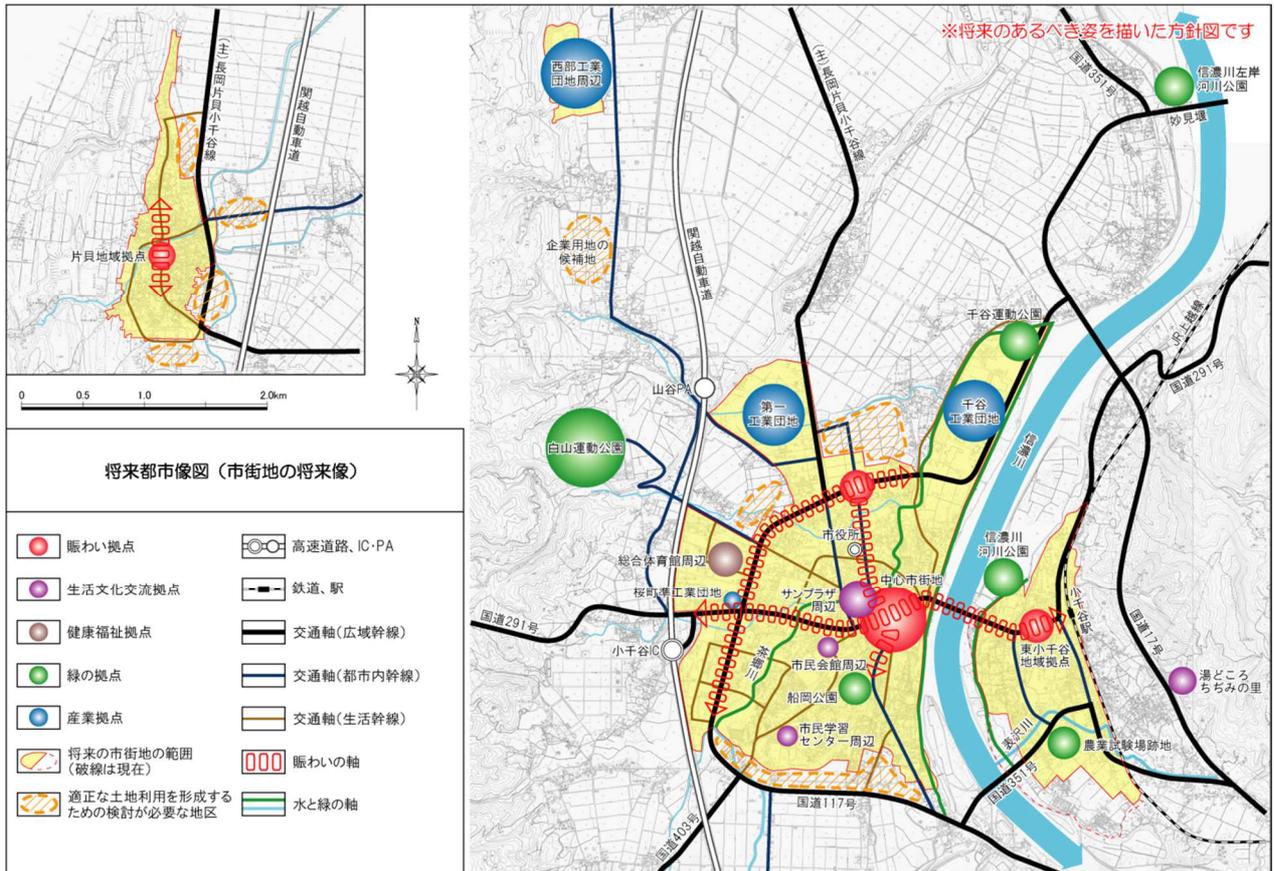
◆ 小千谷総合病院跡地付近の将来都市像 ◆

・本町周辺は、商業・業務機能の強化を図るとともに、小千谷総合病院跡地を有効活用し、本市の中心市街地にふさわしい賑わいのある拠点づくりを進めます。

◆ 小千谷総合病院付近に係るまちづくり方針 ◆

・既存商店街やサンプラーザー帯の中心市街地では、本市の顔となる場所として、また、地域生活の拠点となる場所として、商店街の活性化を図りながら、歴史や伝統文化、自然を活かした魅力づくりを図ります。

- 商店街の活性化（魅力ある商店街づくり、空き店舗対策等）
- 空き家や空き地等を利用した身近な憩いや交流の場づくり
- 小千谷総合病院跡地の活用の検討
- 商店街の景観整備
- 楽しみながら安心して歩ける歩道空間の整備、花や緑等による演出

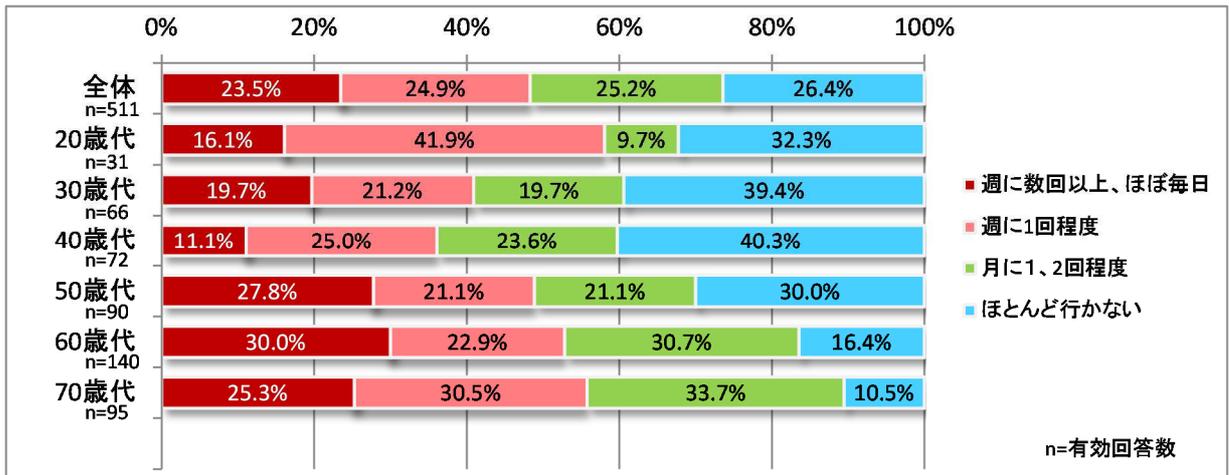


## ② 「まちづくりに関する市民意向調査」における市民ニーズ

調査概要 実施期間：平成 25 年 10 月～11 月  
 対象者：市内に住む 20 歳代～70 歳代の男女  
 回収票数：524 票（回収率 52.4%）

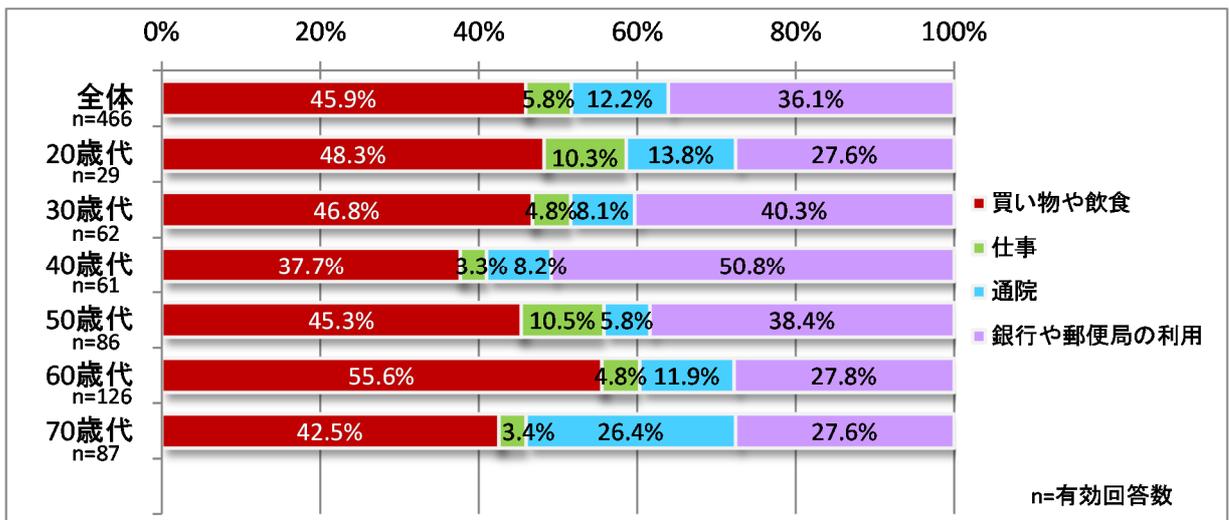
### ◆中心市街地への来訪頻度

- ・中心市街地に週 1 回以上訪れる方は、20 歳代、60 歳代、70 歳代で 5 割を超えています。
- ・一方、30 歳代、40 歳代の 4 割程度が、中心市街地にほとんど行かないと回答しています。



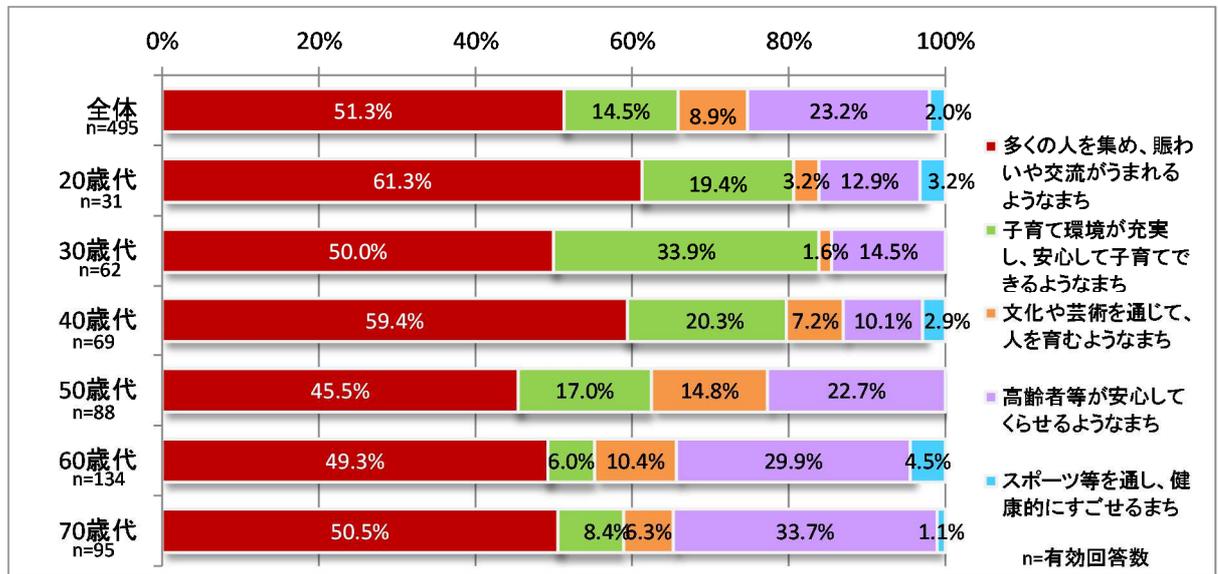
### ◆中心市街地に訪れる目的

- ・全ての年代で「買い物や飲食」、「銀行や郵便局の利用」を目的とする方が多い状況です。
- ・70 歳代は「通院」を目的とする割合が他の年代よりも高くなっています。



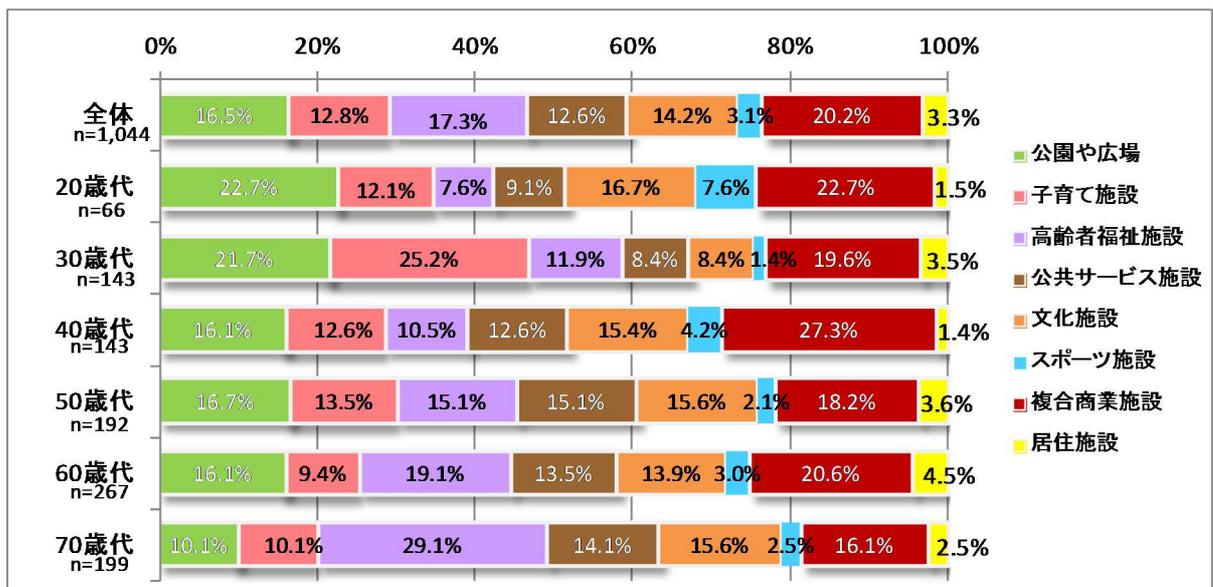
### ◆中心市街地に望ましいまちの姿

- ・ 全体的な傾向としては、「多くの人を集め、賑わいや交流が生まれるようなまち」が最も多くなっています。
- ・ 次いで多いのは、50歳代から70歳代が「高齢者等が安心して暮らせるようなまち」、20歳代から40歳代が「子育て環境が充実し、安心して子育てができるようなまち」となっています。



### ◆中心市街地に望ましい施設整備

- ・ 全体的な傾向としては、大差はないものの「複合商業施設」を望む方が最も多くなっています。
- ・ 30歳代では「子育て施設」、70歳代では「高齢者福祉施設」の割合が他の年代よりも高い状況です。

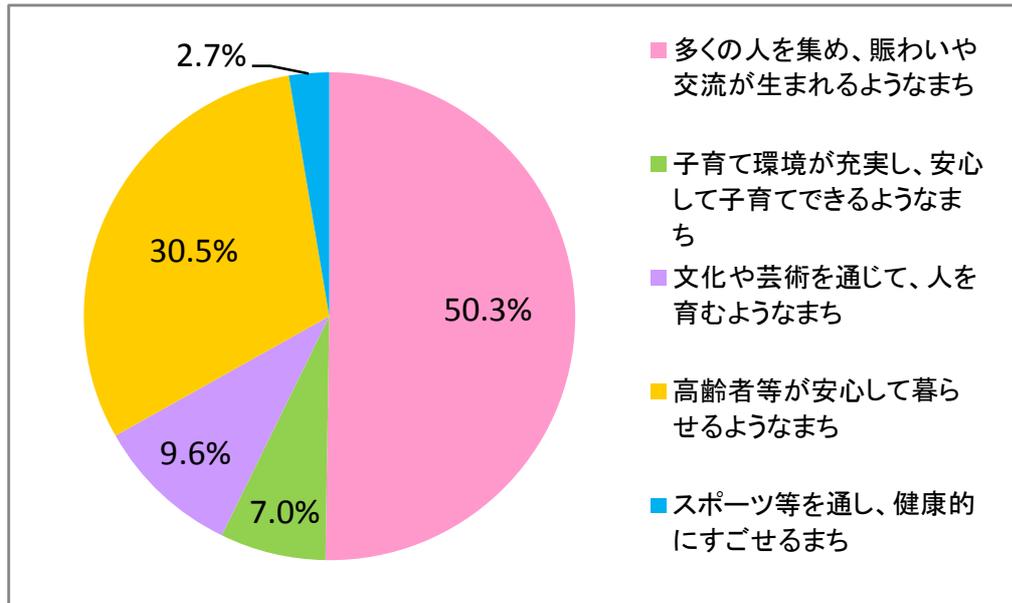


### ③ 「小千谷総合病院跡地利用についてのアンケート調査」における市民ニーズ

調査概要 実施期間：平成 25 年 12 月  
 対象者：本町町内の全世帯  
 回収票数：198 票（回収率 70.2%）

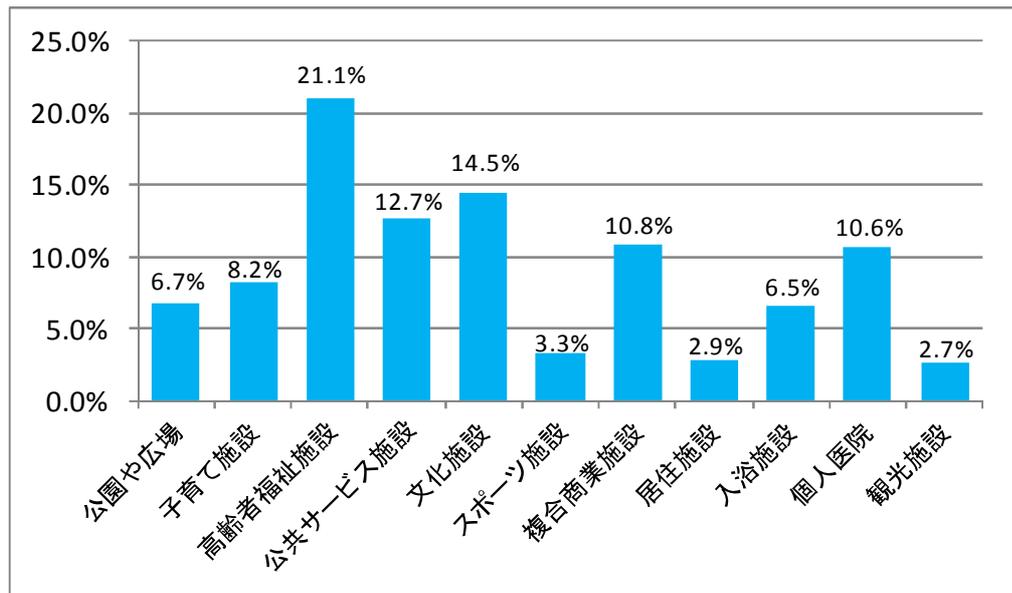
#### ◆本町に望ましいまちの姿

・「多くの人を集め、賑わいや交流が生まれるようなまち」が最も多く、次いで「高齢者等が安心して暮らせるようなまち」が多くなっています。



#### ◆本町に望ましい施設整備

・「高齢者福祉施設」が最も多く、次いで「文化施設」、「公共サービス施設」が多くなっています。



## 第4章 西小千谷地区市街地の活性化に向けた課題

西小千谷地区市街地の現状や位置づけ、小千谷総合病院の統合移転に伴い懸念される影響を踏まえ、西小千谷地区市街地の活性化に向けた課題を整理します。

### — 西小千谷地区市街地の現状 —

- 全市の傾向を上回る人口の減少
- 全市的に著しい高齢化が進展
- 店舗数や従業者数、販売額がいずれも減少し、空き店舗も目立つ
- 郊外型商業施設が国道117号沿いに立地し、商店街の購買力が低下
- 公共交通(路線バス)の利便性が高い

### — 西小千谷地区市街地の位置付け —

- 本市の顔、地域生活や賑わいの拠点
- 多くの人を集め、賑わいや交流が生まれるまち

### — 病院移転に伴い懸念される影響 —

- 病院利用者によるまちなかの往来や商店街利用が無くなる
- 商店街利用者の減少に伴い、店舗の売り上げが減少し、空き店舗が発生
- 病院とともに成り立ってきた薬局などの店舗が空き店舗化
- 集客の核施設である病院が移転することによって、人の動きや流れが分散
- 上記に伴い、中心市街地や西小千谷地区市街地の賑わいや活気が低下

## — 西小千谷地区市街地の活性化に向けた課題 —

### ◇小千谷総合病院に代わる新たな集客機能が必要

人口減少や高齢化の進展により西小千谷地区市街地の活力低下が懸念される中、集客機能として商店街の賑わいや活気を支えてきた病院が移転すれば、更なる活力低下が懸念されます。

そのため、人々の往来や商店街利用者を創出するため、小千谷総合病院に代わる新たな集客機能が必要です。

### ◇中心市街地を中心とした回遊性の向上が必要

集客機能を持った病院が移転することによって、これまで中心市街地が中心となっていた人々の流れや動きが分散し、中心市街地の拠点性が薄れることが懸念されます。

そのため、中心市街地と新病院の連絡性の強化などにより、人々の流れや動きを中心市街地に誘導することが必要です。なお、このことにより西小千谷地区市街地内の回遊性が高まり、活力の再創出につながることを期待されます。

### ◇新たな集客機能の波及効果を受け止める環境づくりが必要

新たな集客施設が整備されれば、施設利用者が商店街で買い物をしたり、周囲を散策するなど、中心市街地の賑わいや活気につながる波及効果が期待されますが、現在の状況ではその効果を十分に発揮することは難しい状況です。

そのため、買い物をしたくなる魅力的な商店街、周囲を散策したくなる快適な歩行空間、それらを実現するための官民連携の体制づくりなどを整えることが必要です。

## 第5章 まちづくりの方向性

### (1) 基本的な考え方

新病院は平成 29 年 4 月の開院を予定しており、その時点で現在の小千谷総合病院はその役割を終えることとなります。そのような時間的制約を踏まえた中で、まずは病院移転をきっかけとした取り組みを先行的に展開し、その効果を中心市街地の活性化や西小千谷地区市街地の活力再創出に波及させていくことが有効です。

### (2) 先行的取り組みの方針

西小千谷地区市街地の活性化に向けた課題、上記の基本的な考え方を踏まえ、以下の事項を先行的取り組みに位置付けます。

#### 先行的取り組み① 集客機能の導入に向けた病院跡地の活用

- ・小千谷総合病院に代わる新たな集客機能を病院跡地に導入します。

#### 先行的取り組み② 病院移転に併せた公共交通の機能強化

- ・路線バスの利便性に優れた現在の環境を活かしながら、病院移転に併せて公共交通の機能強化を図ります。

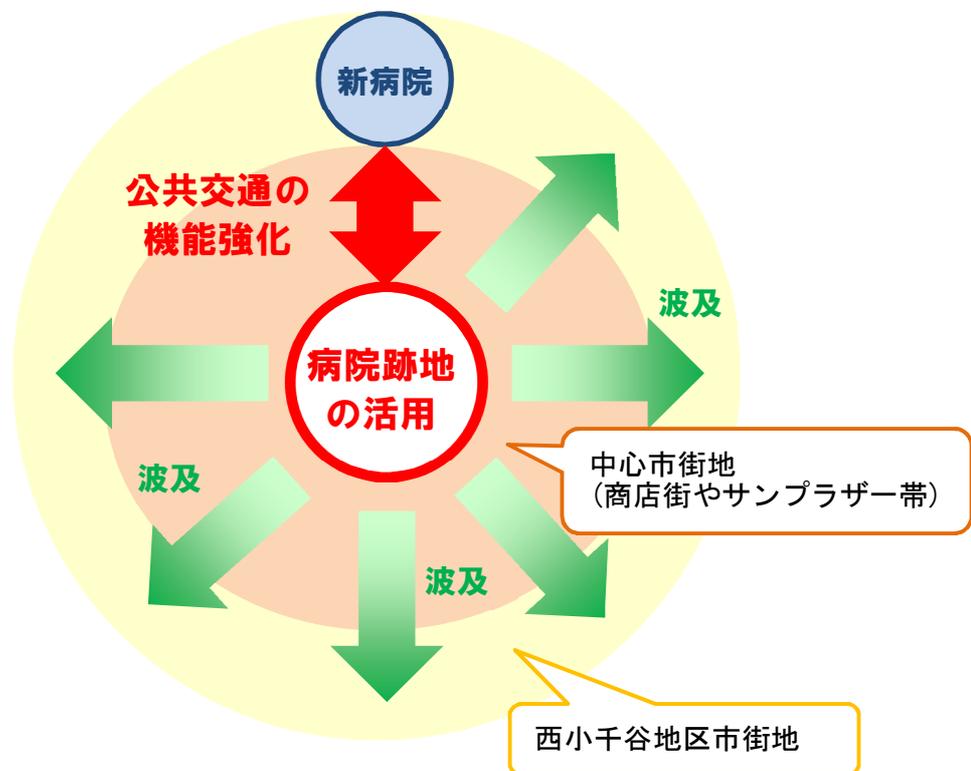


図 先行的取り組みと効果波及のイメージ

## 第6章 まちづくり基本計画

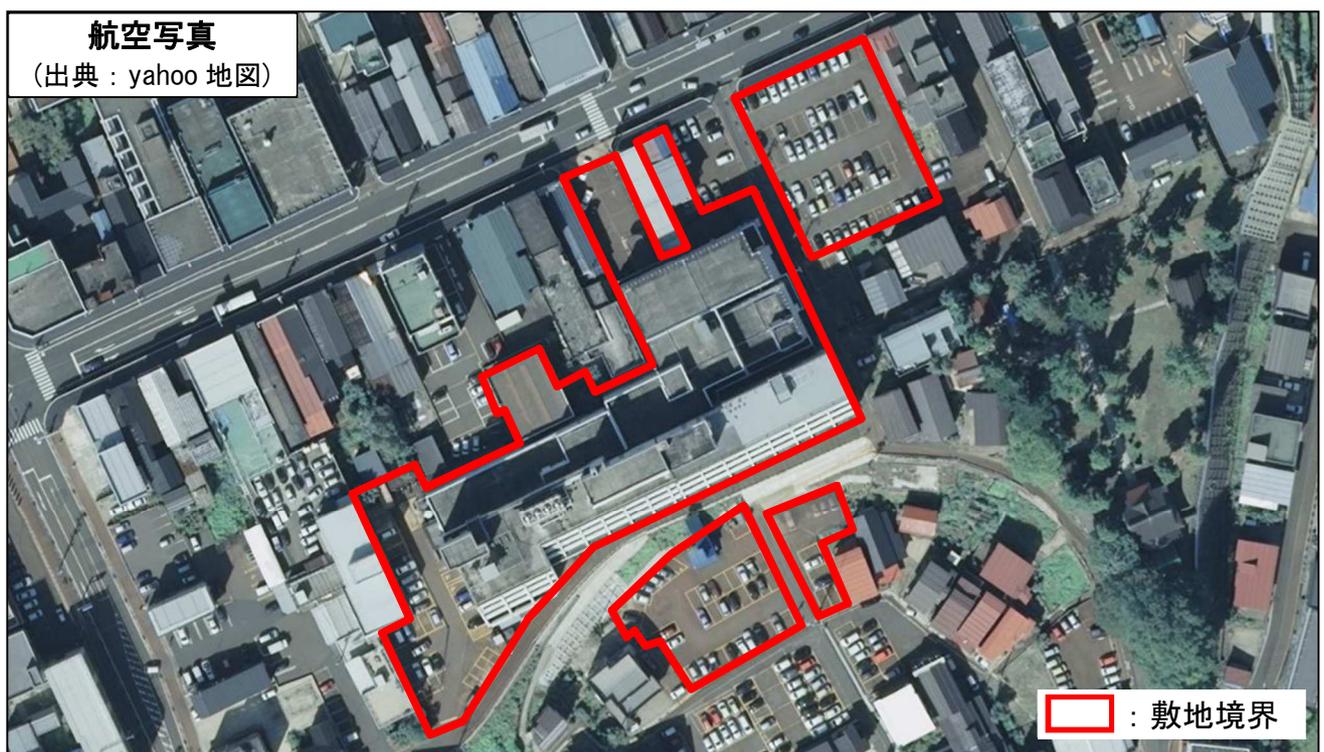
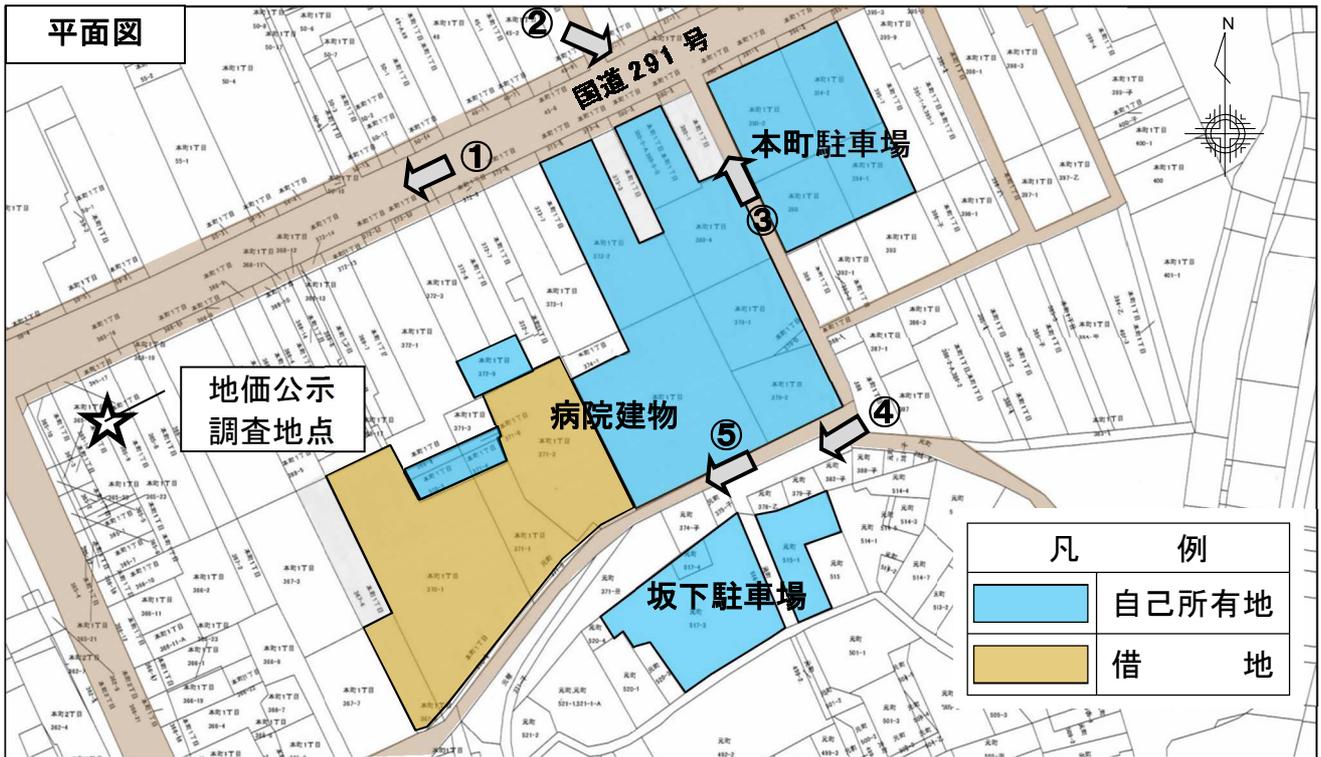
まちづくり基本計画では、先行的取り組みに関する方針、イメージを整理します。

### (1) 集客機能の導入に向けた病院跡地の活用

#### ① 小千谷総合病院の状況等

##### ◆敷地の状況

建物が建っている敷地は、自己所有地と借地に分かれ、敷地の形状としては前面道路に接しない部分もあります。本町駐車場は前面道路に接しているため、まとまった活用が可能です。



所在地	小千谷市本町1丁目13-36周辺
対象地の面積	小千谷総合病院 全敷地面積：5,610.79 m <sup>2</sup> (駐車場は除く) うち、自己所有地：3,044.37 m <sup>2</sup> 借地：2,566.42 m <sup>2</sup>
都市計画制限	商業地域 (容積率 400%、建ぺい率 80%)、準防火地域
接道条件	北側：幅員 18m (国道 291 号) 東側：幅員約 3.7m (市道二荒坂線) 南側：幅員約 3.5m~5.0m (市道下夕町2号線)
地価 (周辺)	56,700 円/m <sup>2</sup> (平成 27 年地価公示(国))

① 国道 291 号



② 本町駐車場



③ 病院と本町駐車場間の市道



④ 坂下駐車場



⑤ 病院南側の市道



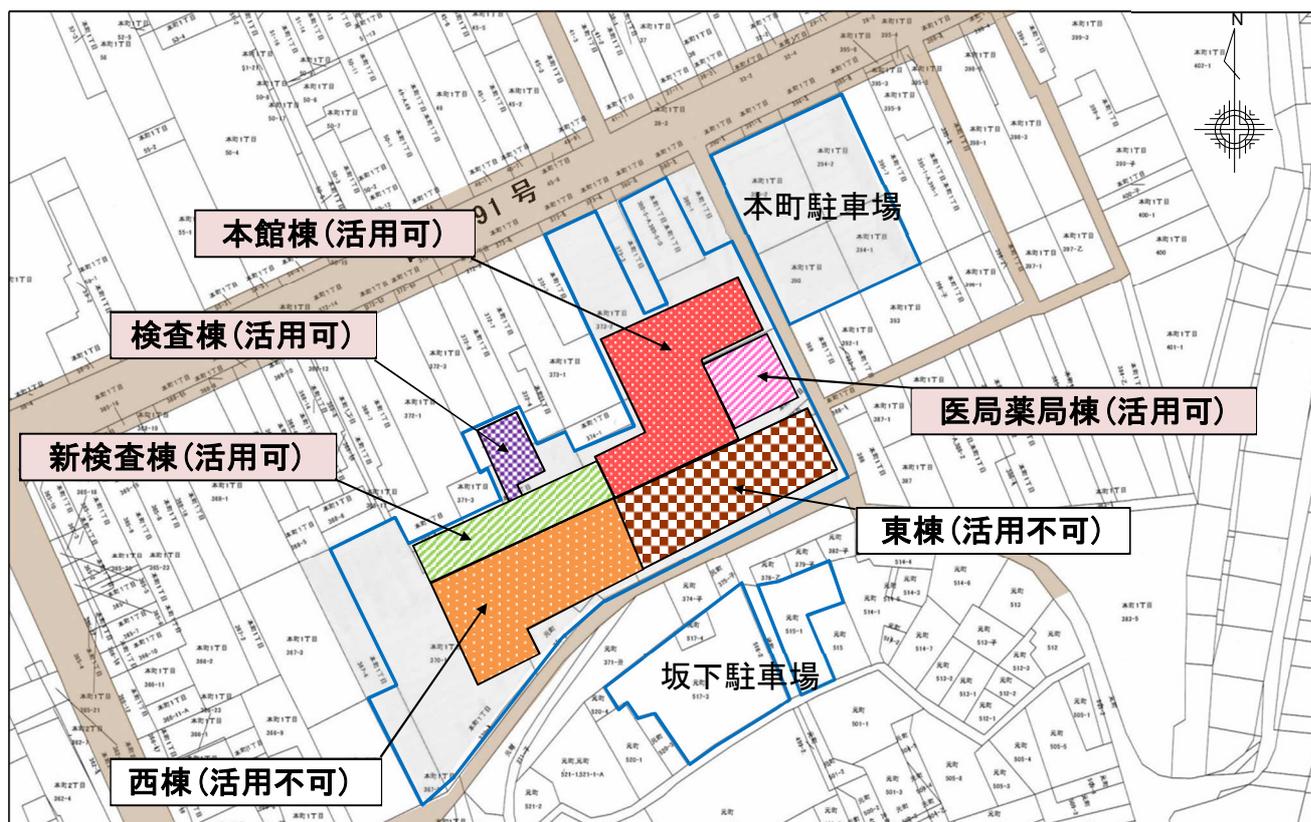
屋上からの景色



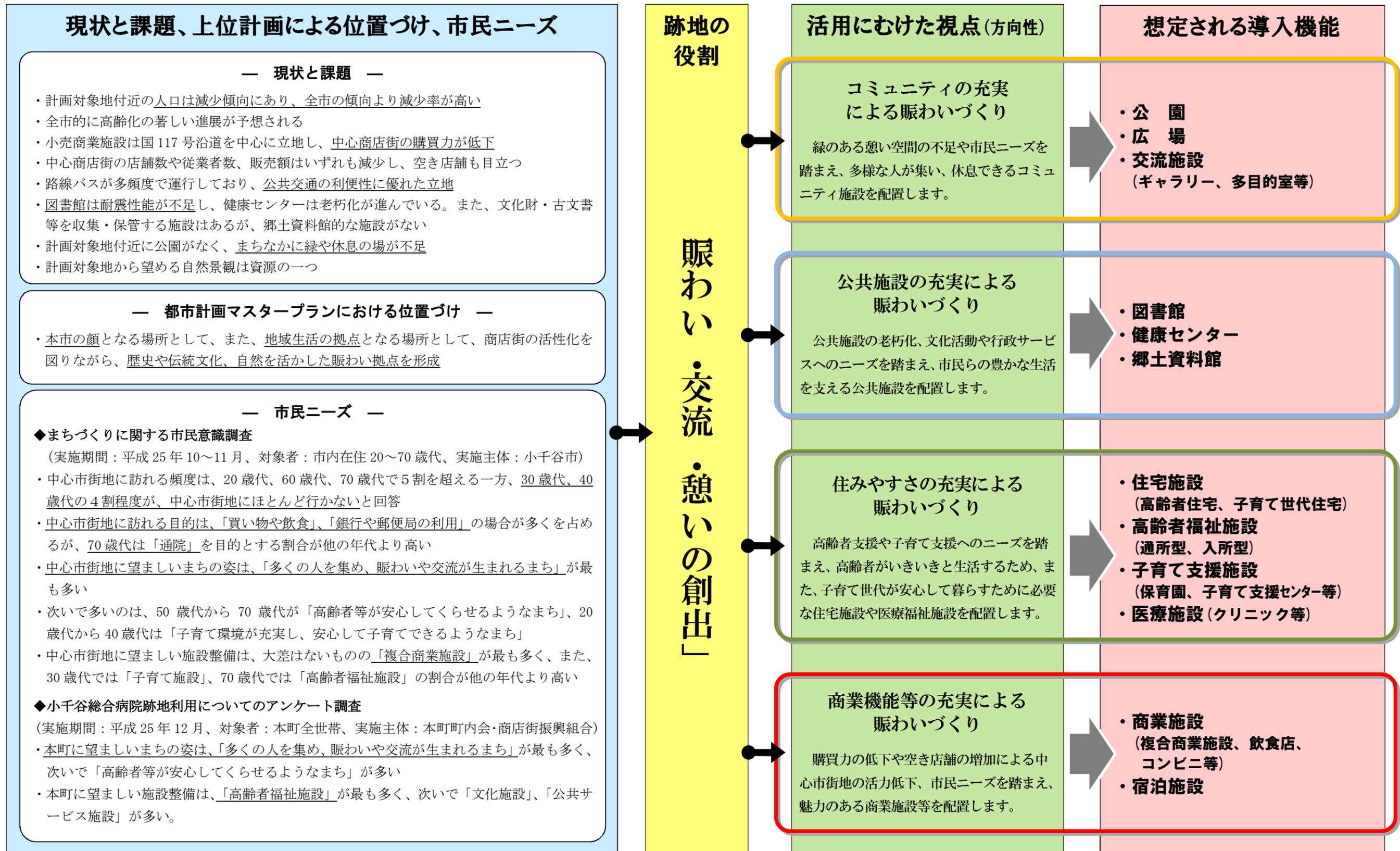
### ◆建築物の条件

対象地内の既存建物のうち、検査棟、本館、新検査棟、医局薬局棟については耐震性に問題がなく、跡地活用の内容によっては活用が可能です。一方、西棟、東棟は現在の耐震基準を満たしておらず、跡地活用にあたっては取り壊しが前提となります。

棟名	建築年	構造	階数	延べ面積 (㎡)	建築面積 (㎡)	耐震改修	借地状況
 検査棟	H17年	軽量鉄骨造	地上2階	433.16	216.58	新耐震基準 以降の建物	混在
 本館棟	H2年	鉄筋コンク リート造	地下1階 地上5階	3,905.57	988.91	新耐震基準 以降の建物	自己保有
 新検査棟	S63年	鉄筋コンク リート造	地下1階 地上4階	1,699.85	482.91	新耐震基準 以降の建物	借地
 医局薬局棟	S57年	鉄筋コンク リート造	地下1階 地上3階	851.82	234.43	新耐震基準 以降の建物	自己保有
 西棟	S55年	鉄筋コンク リート造	地下2階 地上8階	7,754.56	951.39	未	借地
 東棟	S44年	鉄筋コンク リート造	地下1階 地上8階	5,189.00	717.48	未	自己保有
合 計				19,833.96	3,591.70	-	-



② 病院跡地の役割



### ③ 導入機能の方針

病院跡地の役割を受けて想定される導入機能について、市民ニーズ、跡地の役割「賑わい・交流・憩いの創出」への貢献度から核となる機能を絞り込むと、“図書館”の優位性が高いと判断できます。

また、現在の図書館は耐震性能の不足、手狭、老朽化といった問題を抱え、現状のまま利用し続けることは困難な状況であり、本市が抱える行政課題とも合致します。

そのため、病院跡地の核となる機能を“図書館”と方向づけます。

#### 絞り込みの視点1「市民ニーズ」

- ・ 市民意向調査、本町を対象に行ったアンケートでは、「多くの人を集め、賑わいや交流が生まれるようなまち」の意見が多数
- ・ 委員会において実施した導入機能意向調査では、交流施設、図書館、郷土資料館、商業施設の意見が多数



#### 絞り込みの視点2

##### 「跡地の役割への貢献度」

- ・ 日常的に利用が見込める機能であること  
⇒ 図書館の貸出人数は年間約42,000人  
(平成26年度)で、返却するだけの人や借りない人も含めれば更に多くの利用者が訪れる
- ・ 年齢や性別等に限定されず、多世代の方が利用できる機能であること  
⇒ 図書館は幅広い年代から利用される施設

#### 図書館の現状

- ・ 昭和52年に建設された建築物であり、耐震診断の結果、耐震補強が必要と判断されているが、補強工事の予定はない(公共施設では図書館のみ)
- ・ 蔵書数が年々増加しており(平成26年度時点では約144,000冊)、保管場所の確保が困難な状況
- ・ 図書館システム整備のための数値基準によると、延床面積は約1,000㎡、蔵書数は約60,000万冊足りない状況
- ・ 建設されてから40年近く経過しており、施設や設備が老朽化

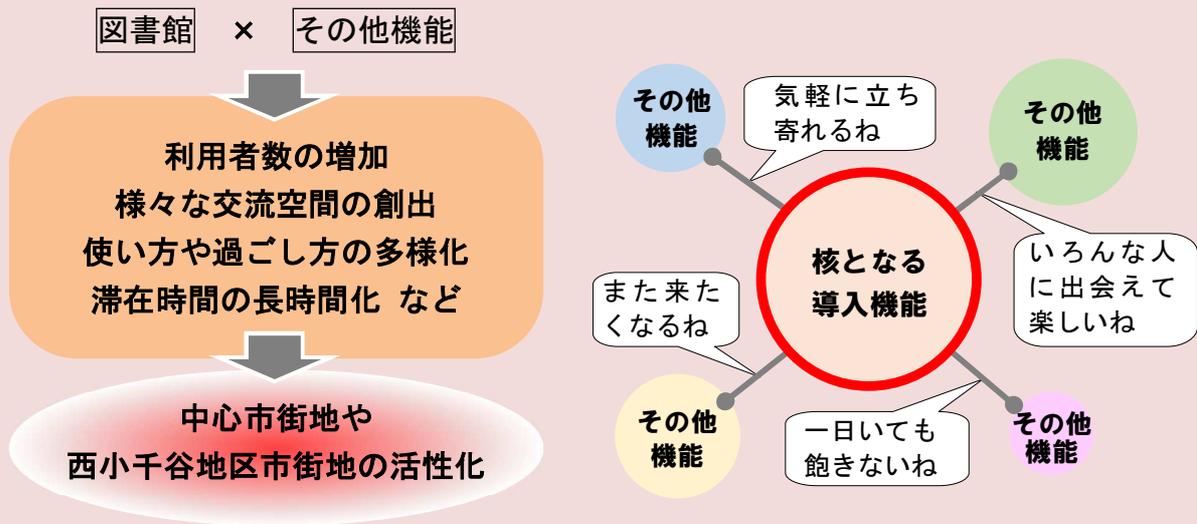
方針1…核となる機能を“図書館”とする

また、図書館の導入にあたっては、その他機能と複合させることにより、利用者数の増加や滞在時間の長時間化などといった相乗効果の波及が期待できます。

なお、図書館に併設するその他の機能は、市民ワークショップでいただいた意見、機能の利用者やサービス提供者の需要などを踏まえ、今後具体的な検討を進めます。

## 方針2…機能(施設)を複合することにより相乗効果を生み出す

### － 相乗効果のイメージ －



### 【参考】 その他機能のイメージ (市民ワークショップでいただいた意見より)

意見種別	やってみたいこと	機能(施設)
くつろぐ、ゆっくりする	ゆっくり本を読む	カフェ
いろんなことができる	利用者の多様なニーズに応じて、様々な使い方ができる	多目的スペース
情報を発信する	小千谷市の歴史、文化を観光客や市民に紹介する	交流館 西脇順三郎記念館
趣味を楽しむ	楽器やダンスを練習する	練習スタジオ

## (2) 病院移転に併せた公共交通の機能強化

### ① 取り組みの方針

#### 中心市街地と新病院を結ぶ新たな交通手段の確保

中心市街地と新病院を結ぶ路線は現在なく、中心市街地から新病院付近を通過する越後交通(株)の路線バスが1系統運行していますが、上下あわせて1日あたり24便(平均すると片道1便/h程度)となっており、連絡性が充分とは言えない状況です。

人の流れや動きを中心市街地に誘導し、中心市街地の拠点性を高めるためには、現在の路線バスの機能を活かしながら、中心市街地と新病院を連絡する新たな交通手段の確保が必要と考えられます。

### ② 中心市街地を中心とした回遊性の向上

中心市街地と新病院を結ぶ新たな交通手段の確保に合わせ、特に交通弱者となる高齢者への生活サービスの利便性の向上及び健康づくりの支援として、新病院＝中心市街地＝小千谷駅を軸としながら、日常生活に必要なサービスとして市役所をはじめとした公共施設、健康づくりの支援としてちぢみの里なども結ぶ新たな公共交通の運行について検討します。

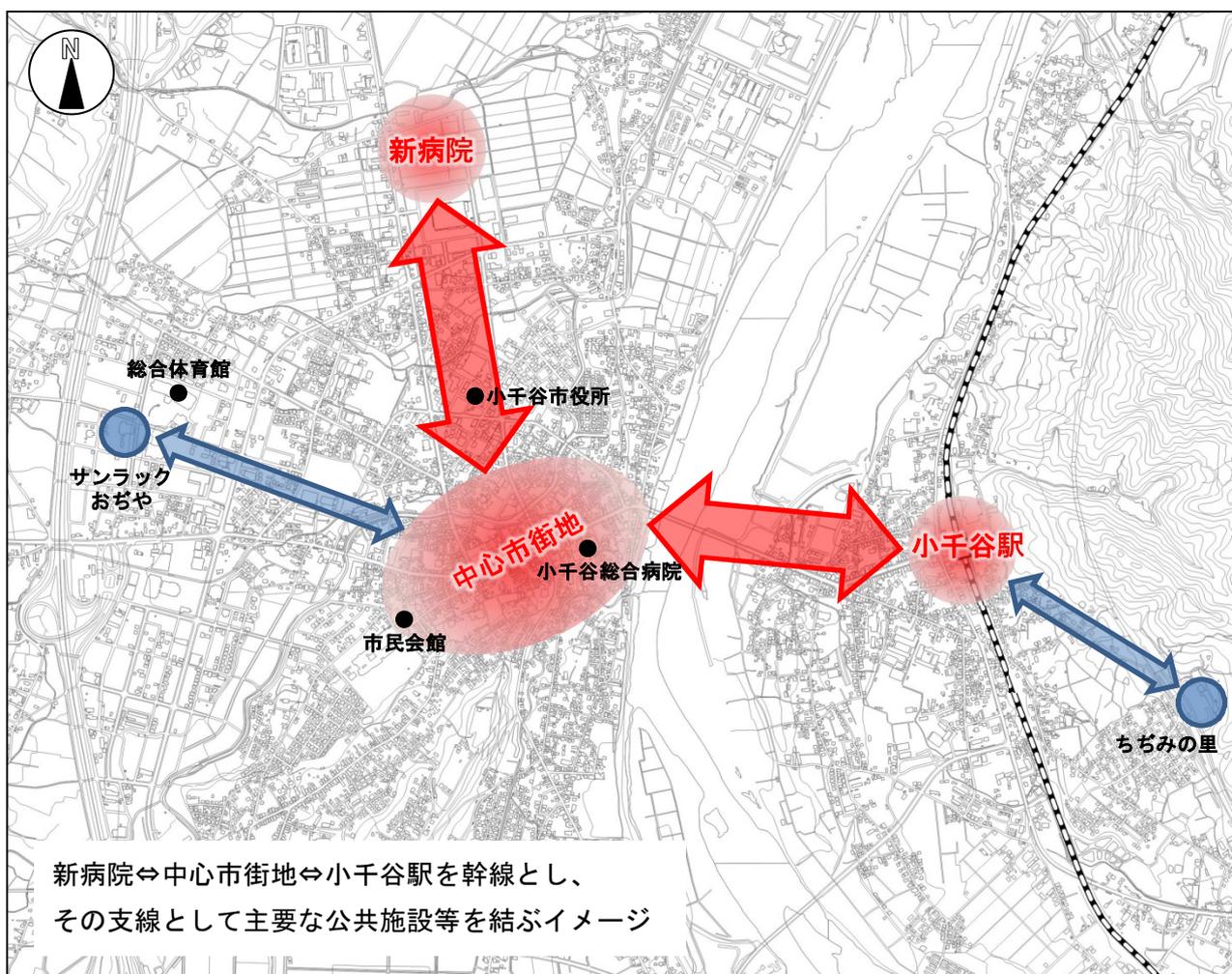
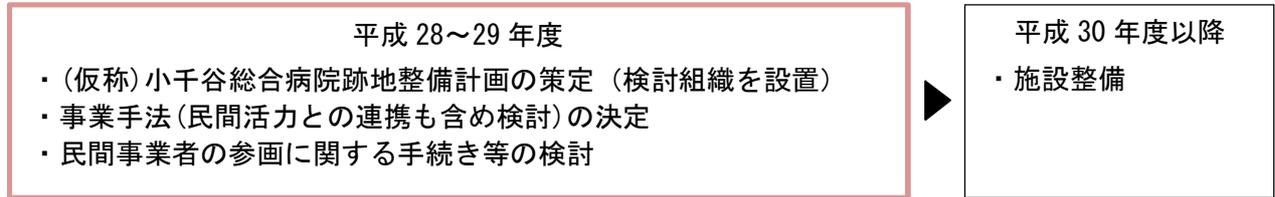


図 新たな交通手段のイメージ

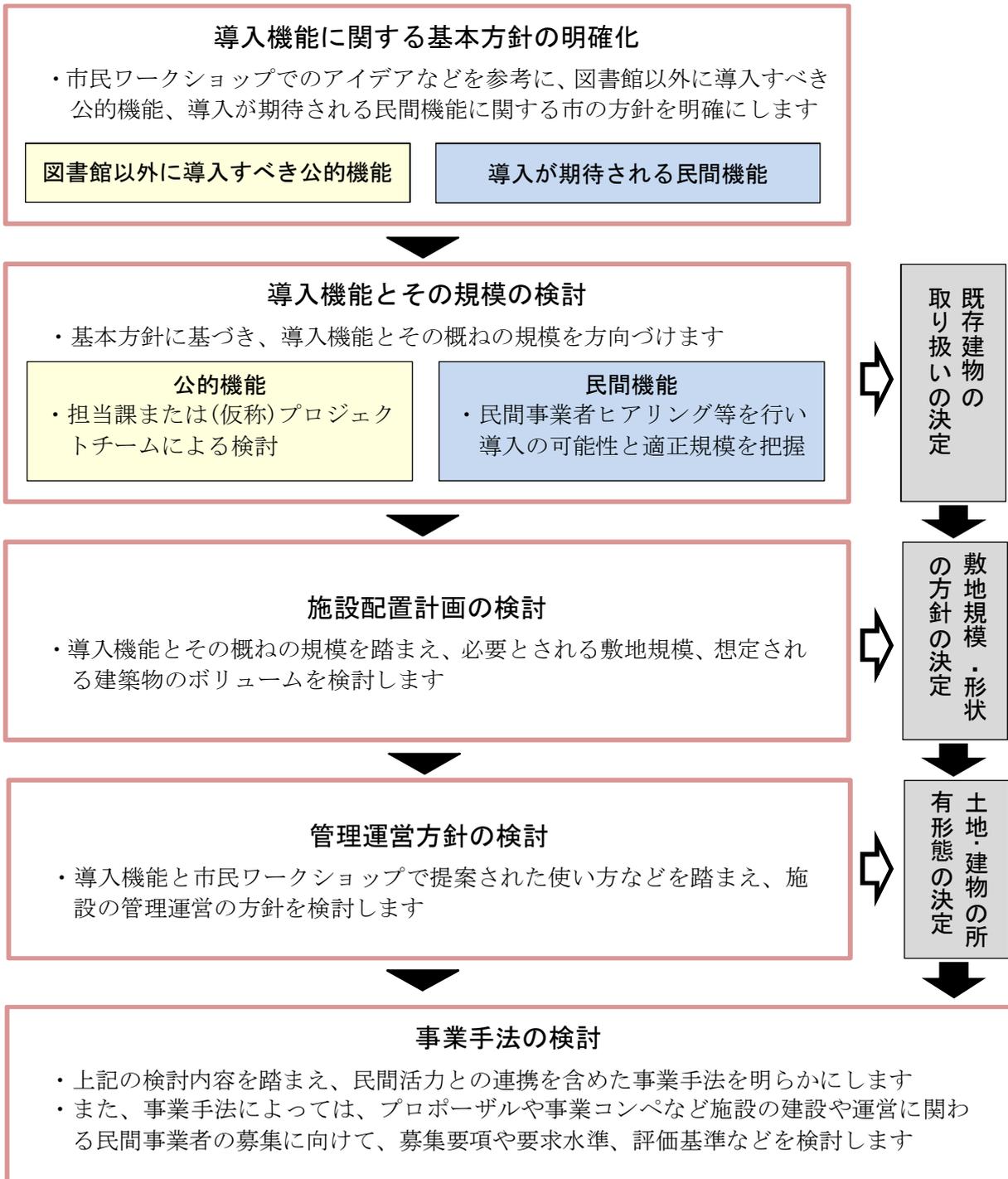
## 第7章 今後の進め方

### (1) 跡地活用に関して

#### ① 今後の予定



#### ② 平成 28～29 年度の検討手順



### ③ 担い手として期待される市民の関わりについて

委員会が開催した市民ワークショップには、幅広い年代から多くの市民の方々に参加いただき、病院跡地の活用や今後の中心市街地、西小千谷地区市街地のあり方に対する高い関心が窺えました。

今後は、市民の関心や期待感を更に高めるとともに、新たな施設が市民や市民団体の様々なニーズの受け皿となるよう、先進事例の取り組みなどを参考に、計画段階から市民が関わっていける方策を検討します。

## (2) 公共交通の機能強化に関して

中心市街地と新病院を結ぶ新たな交通手段の具体化にあたっては、交通事業者、商店街関係者、病院関係者、利用者である市民、行政が調整を図りながら検討を進める必要があるため、小千谷市地域公共交通協議会を中心として調整、検討を行います。

なお、持続可能な公共交通とするためには、利用者の需要に応じて適宜運行ルートの見直しを行うなど、柔軟に対応していく必要があります。